

## Ⅱ. 管理栄養士・栄養士養成施設における栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの周知・活用状況

### 1. 目的

平成 30 年度に作成した「管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム」（以下、栄養学教育コアカリという）の管理栄養士・栄養士養成施設（以下、養成施設という）における周知と活用状況を、各養成施設のめざす人材養成との対応で把握することを目的とした。

### 2. 方法

一般社団法人全国栄養士養成施設協会の協力により、協会に登録している管理栄養士養成施設 149 施設と、栄養士養成施設のうち短期大学 94 施設、計 243 養成施設を対象とした質問紙調査を、令和元年 11 月～12 月に郵送法にて行った（調査票は巻末資料参照）。調査内容は、養成施設の教員である学会役員を中心に検討して決定した。

調査内容は、養成施設が管理栄養士・栄養士の養成を行う上で重点を置いている分野、養成する人材のめざす資質として重要と考えるレベル（例えば、管理栄養士国家試験に合格できるレベル、所属組織の中でリーダーシップをとれるレベル、国際社会で活躍できるレベルなど）、栄養学教育コアカリの周知方法と活用方針、卒業生の進路、定員数などである。

管理栄養士養成施設と栄養士養成施設を分け、さらに、養成する人材のめざす資質として重要と考えるレベル別の群に分けて、集計を行った。欠損値は項目毎に除外した。群別の比較は、 $\chi^2$ 検定または Fisher の正確確率検定を用いて行った。有意水準は 5%とした。

### 3. 結果

#### 1) 調査票の回収状況（表 1-1）

回収件数は、管理栄養士 111 件、栄養士養成 70 件、計 181 件（回収割合：管理栄養士養成施設 74.5%、栄養士養成施設 74.5%、全体 74.5%）であった。

管理栄養士養成施設では、定員では、41 人以上 80 人以下が 51.4%と半数を占め、次いで 40 人以下が 27.9%であった。編入定員がある養成施設は 27%であった。栄養士養成施設では、定員は 41 人以上 80 人以下が 50.0%、40 人以下が 28.6%であった。

#### 2) 養成する人材のめざす資質と群分け（表 1-2,3）

管理栄養士養成施設では、「専門職として社会で活躍できる」と「管理栄養士国家試験に合格できる」レベルは、「大いに重要」との回答が 90%以上であった。「所属組織の中で、リーダーシップをとれる」レベルを「大いに重要」と回答したのは 55.5%、「実践活動だけでなく研究もできる」と「社会でリーダーシップをとれる」レベルを「大いに重要」

と回答したのは約 1/3,「国際社会で活躍できる」を「大いに重要」と回答した施設は 15.5%であった。

管理栄養士養成施設については、この質問の回答を用いて 3 群に分類し集計を行った。すなわち、「社会でリーダーシップをとれる」および「国際社会で活躍できる」のいずれか又は両方を「大いに重要」とした群（以下、社会でリーダー&国際的な活躍群）、「所属組織の中でリーダーシップをとれる」を「大いに重要」としたが、「社会でリーダーシップをとれる」および「国際社会で活躍できる」は「大いに重要」とは回答しなかった群（以下、組織でリーダー群）、「専門職として社会で活躍できる」および「管理栄養士国家試験に合格できる」のいずれか又は両方を「大いに重要」としたが、他は「大いに重要」以外の回答をした群（以下、国試合格&社会で活躍群）である。

栄養士養成施設では、「専門職として社会で活躍できる」レベルを「大いに重要」と回答した施設はほぼ 100%であり、「所属組織の中で、リーダーシップをとれる」レベルを「大いに重要」と回答したのは 35.7%であった。「管理栄養士国家試験に合格できる」レベルを「大いに重要」と回答した施設は 14.5%で、それ以外を「大いに重要」と回答した施設は少なかった。また、各養成施設が管理栄養士との関係でめざしている養成のあり方を尋ねた結果は、「栄養士として管理栄養士とは異なる資質を重視」と回答した施設は 31.4%、「将来は管理栄養士の資格取得をめざす」が 10.0%、「どちらも同じくらい重視」が 58.6%であった。

栄養士養成施設については、後者の回答を用いて 3 群に分け、集計を行った。すなわち、栄養士の資質重視群、管理栄養士の資質重視群、栄養士&管理栄養士の資質いずれも重視群である。

### 3) 管理栄養士養成施設 めざす姿群別の結果

#### (1) 定員数、編入定員の有無、設置主体（表 2-1~3）

定員数、編入定員の有無、設置主体、いずれも有意な群間差はみられなかった。定員では、社会でリーダー&国際的な活躍群では、40 人以下の小規模養成施設が 44.4%と最も多いのに対し、組織でリーダー群と国試合格&社会で活躍群では、41 人以上 80 人以下が半数強を占めた。設置主体では、社会でリーダー&国際的な活躍群は、国公立が 30.6%と、他の 2 群より多い傾向がみられた。

#### (2) 養成上重点を置いている分野（表 3-1,2）

人材養成上、重点を置いている分野、および特徴としている分野の回答に有意な群間差はみられなかった。

全体では、重点を置いている分野で最も多かったのは、臨床栄養 73.9%で、次いで給食経営管理・給食管理 46.8%、公衆栄養 36.9%、介護・福祉 20.7%、学校栄養 17.1%の順

であった。特徴としている分野では、無回答の施設が 40.5%と多かった。選択された分野では、臨床栄養 34.2%，給食経営管理・給食管理 17.1%，公衆栄養 14.4%と、上位 3 位までは重点を置いている分野と同じであったが、4 番目にスポーツ栄養 13.5%が入り、次が学校栄養 10.8%であった。

#### (3) 栄養学教育コアカリの活用状況 (表 4-1,2)

栄養学教育コアカリの学内での周知方法、教育課程への活用状況に、有意な群間差はみられなかった。

全体では、学内での周知の状況では、「学内で情報提供を行った」87.4%，「学外の研修会等への参加を呼びかけた」50.5%であり、「学内で研修会等を開催した」は 18.9%と少なかった。教育課程への活用では、既に何らか実施済は、「既に教員個人に活用を促し済」39.6%，「既に学内での活用検討を実施済」24.3%であり、「今後、学内での活用を検討予定」が 47.7%と約半数であった。一方、「とくに活用する予定なし」は 5.4%であった。

#### (4) 卒業生の進路 (表 5)

卒業生の進路で、「管理栄養士・栄養士の資格を活かして就職」は、いずれの群も 7 割前後であった。進学は社会でリーダー&国際的な活躍群が 5.9%で、他の 2 群は 3%台であった。

### 4) 栄養士養成施設 めざす姿群別の結果

#### (1) 定員数、設置主体 (表 6-1,2)

定員数、設置主体、いずれも有意な群間差はみられなかった。定員では、いずれの群も 41 人以上 80 人以下が約半数を占めた。設置主体では、ほとんどが私立であった。

#### (2) 養成上重点を置いている分野 (表 7-1,2)

人材養成上、重点を置いている分野、および特徴としている分野の回答に有意な群間差はみられなかった。

全体では、重点を置いている分野では、給食経営管理・給食管理が 72.9%と最も多かった。2 位以下の臨床栄養 27.1%，食品開発 18.6%，介護・福祉 15.7%，学校栄養 14.3%と大きく差があり、給食経営管理・給食管理に集中していた。特徴としている分野でも同様に、給食経営管理・給食管理 50.0%と最も多く、次いでそのほか 32.9%で、その具体的内容では食育、郷土料理、地域の食材、地域の食文化など多様な分野が示されていた。

### (3) 栄養学教育コアカリの活用状況 (表 8-1,2)

栄養学教育コアカリの学内での周知方法、教育課程への活用状況に、有意な群間差はみられなかった。

全体では、学内での周知の状況では、「学内で情報提供を行った」85.7%、「学外の研修会等への参加を呼びかけた」45.7%であり、「学内で研修会等を開催した」は18.6%と少なかった。教育課程への活用では、既に何らか実施済は、「既に教員個々人に活用を促し済」48.6%、「既に学内での活用検討を実施済」32.9%であり、「今後、学内での活用を検討予定」が35.7%で、「今後、教員個々人に活用を促す予定」32.9%と同じくらいであった。「とくに活用する予定なし」は1施設(1.4%)のみであった。

### (4) 卒業生の進路 (表 9)

卒業生の進路で、「管理栄養士・栄養士の資格を活かして就職」は、いずれの群も7割前後で、進学(管理栄養士養成課程への編入が中心)はいずれの群も6%前後であった。

## 4. 考察

### 1) 栄養学教育コアカリの活用状況

栄養学教育コアカリの周知方法としては、「学内で情報提供を行った」と「学外の研修会等の参加を呼びかけた」が多く、「学内で研修会等を実施した」は、管理栄養士、栄養士養成施設とも、18%台に留まっていた。本事業におけるコアカリ活用支援ガイド案のヒアリング結果でも、「教員のコアカリ活用についての意識の共有と時間の確保」が、「全教員間で組織的に取り組む」ための条件として挙げられている。今後のコアカリの活用に向けては、学内での研修会等を開催し、学内で教員が栄養学教育コアカリについて共通理解をし、学科全体で取り組むための意見交換をする場が必要であろう。

今後の活用では、「今後、学内での活用を検討予定」が管理栄養士養成施設の約半数、栄養士養成施設の1/3強と最も多かったことは、本調査の実施が、栄養学教育コアカリが平成31年3月に公表され、その年の11月であったことを考えると妥当であろう。栄養学分野の卒前教育の質の向上に向けて、栄養学教育コアカリを教育課程に反映させていくには、科目間のつながりを十分に考慮することが重要である。そのためには、個々人のレベルで活用を促すだけでなく、組織的な取り組みが必要であり、今回作成したコアカリ活用支援ガイドの有効利用が期待される。

### 2) 管理栄養士養成施設と栄養士養成施設における養成で重視する分野の違い

管理栄養士養成施設では、重視する分野として、臨床栄養、介護・福祉、給食経営管理・給食管理、公衆栄養、学校栄養など、法的に管理栄養士の配置が位置づいている分野が複数挙げられていた。また、特徴のある分野として、スポーツ栄養をあげた養成施設も少な

くなかった。これらの分野はいずれも、本事業のコアカリ活用支援ガイドの作成において、検討を行った分野である。

一方、栄養士養成施設では、重点を置いている分野は、給食管理分野1つに集中していた。本事業では、栄養士養成施設については、給食分野における活用の検討を行った。

以上より、本事業における栄養学教育コアカリの具体的な活用を検討する分野の選択は、妥当であったといえる。

## 5. 結論

管理栄養士養成施設および栄養士養成施設における、栄養学教育コアカリの周知方法では、「学内で情報提供を行った」、「学外の研修会等の参加を呼びかけた」が中心であり、「学内での研修を実施した」は18%台に留まっていた。教育課程への活用では、「今後、学内での活用を検討予定」は、管理栄養士養成施設の47.7%、栄養士養成施設の35.7%で、いずれも最も多かったことから、本事業で作成したコアカリ活用支援ガイドの有効利用が期待される。

また、養成上重点を置いている分野の回答結果から、本事業で栄養学教育コアカリの具体的な活用を検討する分野の選択は、管理栄養士養成施設および栄養士養成施設、いずれにおいても妥当であったと示唆された。

## 引用文献

- 1) 日本栄養改善学会. 平成30年度管理栄養士専門分野別人材育成事業「教育養成領域での人材育成」報告書, 管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの考え方. [http://jsnd.jp/img/H30\\_houkoku\\_8.pdf](http://jsnd.jp/img/H30_houkoku_8.pdf) (2020年3月15日)

表 1-1 入学定員数, 編入学定員の有無

		管理栄養士養成施設 n=111		栄養士養成施設 n=70	
		n	(%)	n	(%)
入学定員数	40人以下	31	(27.9)	20	(28.6)
	41人以上80人以下	57	(51.4)	35	(50.0)
	81人以上120人以下	17	(15.3)	10	(14.3)
	121人以上160人以下	4	(3.6)	5	(7.1)
	160人以上200人以下	2	(1.8)	0	(0.0)
編入学定員有無	有り	30	(27.0)	0	(0.0)
	無し	81	(73.0)	70	(100.0)

表 1-2 重要と考える管理栄養士・栄養士の人材像

	管理栄養士養成施設 n=111						栄養士養成施設 n=70						P値	
	あまり 重要でない		まあ 重要		大いに 重要		あまり 重要でない		まあ 重要		大いに 重要			
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)		
専門職として社会で活躍できる	0	(0.0)	1	(0.9)	110	(99.1)	0	(0.0)	1	(1.4)	69	(98.6)	1.000	b
管理栄養士国家試験に合格できる	1	(0.9)	8	(7.2)	102	(91.9)	11	(15.9)	48	(69.6)	10	(14.5)	<0.001	a
実践活動だけでなく研究もできる	11	(10.0)	61	(55.5)	38	(34.5)	32	(46.4)	35	(50.7)	2	(2.9)	<0.001	a
所属組織の中で、リーダーシップをとれる	2	(1.8)	47	(42.7)	61	(55.5)	3	(4.3)	42	(60.0)	25	(35.7)	0.026	b
社会でリーダーシップをとれる	8	(7.3)	67	(61.5)	34	(31.2)	21	(30.4)	43	(62.3)	5	(7.2)	<0.001	a
国際社会で活躍できる	34	(30.9)	59	(53.6)	17	(15.5)	44	(63.8)	24	(34.8)	1	(1.4)	<0.001	a

欠損値は項目ごとに除外

a:  $\chi^2$ 検定

b: Fisherの正確確率検定

表 1-3 重要と考える栄養士の人材像

栄養士養成施設(n=70)のみ回答		
	n	(%)
栄養士として管理栄養士とは異なる資質	22	(31.4)
将来は管理栄養士の資格取得を目指す	7	(10.0)
どちらも重視	41	(58.6)

## 【管理栄養士養成施設】

表 2-1 重要と考える管理栄養士の人材像別入学定員数

n=111							
	社会でリーダー& 国際的な活躍 n=36		組織でリーダー n=27		国試合格& 社会で活躍 n=48	P値	
	n	(%)	n	(%)	n		(%)
40人以下	16	(44.4)	7	(25.9)	8	(16.7)	
41人以上80人以下	15	(41.7)	14	(51.9)	28	(58.3)	0.087 a
81人以上	5	(13.9)	6	(22.2)	12	(25.0)	

a:  $\chi^2$ 検定

表 2-2 重要と考える管理栄養士の人材像別編入学定員の有無

n=111							
	社会でリーダー& 国際的な活躍 n=36		組織でリーダー n=27		国試合格& 社会で活躍 n=48	P値	
	n	(%)	n	(%)	n		(%)
編入学定員有り	8	(22.2)	8	(29.6)	14	(29.2)	
編入学定員無し	28	(77.8)	19	(70.4)	34	(70.8)	0.731 a

a:  $\chi^2$ 検定

表 2-3 重要と考える管理栄養士の人材像別設置主体(国公立・私立)

n=111							
	社会でリーダー& 国際的な活躍 n=36		組織でリーダー n=27		国試合格& 社会で活躍 n=48	P値	
	n	(%)	n	(%)	n		(%)
国公立	11	(30.6)	5	(18.5)	5	(10.4)	
私立	25	(69.4)	22	(81.5)	43	(89.6)	0.066 a

a:  $\chi^2$ 検定

表 3-1 重要と考える管理栄養士の人材像別養成に重点を置いている分野(複数回答)

	計 n=111		社会でリーダー& 国際的な活躍 n=36		組織でリーダー n=27		国試合格& 社会で活躍 n=48		P値
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
臨床栄養	82	(73.9)	23	(63.9)	25	(92.6)	34	(70.8)	0.160 b
介護・福祉	23	(20.7)	7	(19.4)	7	(25.9)	9	(18.8)	0.897 a
公衆栄養	41	(36.9)	12	(33.3)	12	(44.4)	17	(35.4)	0.917 a
給食経営管理・給食管理	52	(46.8)	11	(30.6)	18	(66.7)	23	(47.9)	0.063 a
学校栄養	19	(17.1)	5	(13.9)	2	(7.4)	12	(25.0)	0.089 a
スポーツ栄養	14	(12.6)	4	(11.1)	5	(18.5)	5	(10.4)	0.710 b
食品開発	14	(12.6)	6	(16.7)	3	(11.1)	5	(10.4)	0.616 b
国際栄養	2	(1.8)	2	(5.6)	0	(0.0)	0	(0.0)	0.160 b
その他	17	(15.3)	7	(19.4)	4	(14.8)	6	(12.5)	0.533 a
無回答	15	(13.5)	7	(19.4)	1	(3.7)	7	(14.6)	

a:  $\chi^2$ 検定

b: Fisherの正確確率検定

検定は、無回答(n=15)を除外

その他: 研究, 地域連携, 英語のコミュニケーション, 食育, 大学院への進学, 薬物療法学, 卒業論文, 臨床心理学, 基礎栄養学, 栄養生化学, 調理学, 基礎栄養学, 化学, 医療

表 3-2 重要と考える管理栄養士の人材像別養成の特徴としている分野(複数回答)

	計 n=111		社会でリーダー& 国際的な活躍 n=36		組織でリーダー n=27		国試合格& 社会で活躍 n=48		P値
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
臨床栄養	38	(34.2)	12	(33.3)	10	(37.0)	16	(33.3)	0.885 a
介護・福祉	9	(8.1)	2	(5.6)	4	(14.8)	3	(6.3)	0.352 b
公衆栄養	16	(14.4)	7	(19.4)	2	(7.4)	7	(14.6)	0.361 a
給食経営管理・給食管理	19	(17.1)	6	(16.7)	4	(14.8)	9	(18.8)	0.865 a
学校栄養	12	(10.8)	2	(5.6)	2	(7.4)	8	(16.7)	0.191 b
スポーツ栄養	15	(13.5)	3	(8.3)	4	(14.8)	8	(16.7)	0.443 a
食品開発	11	(9.9)	3	(8.3)	3	(11.1)	5	(10.4)	0.920 b
国際栄養	3	(2.7)	0	(0.0)	2	(7.4)	1	(2.1)	0.249 b
その他	14	(12.6)	4	(11.1)	4	(14.8)	6	(12.5)	0.928 b
無回答	45	(40.5)	14	(38.9)	11	(40.7)	20	(41.7)	

a:  $\chi^2$ 検定

b: Fisherの正確確率検定

検定は、無回答(n=45)を除外

その他: 他職種連携論, 基礎科学, 基礎栄養学, 心理学, 時間栄養学, 全体をバランスよく

表 4-1

重要と考える管理栄養士の人材像別「栄養学モデル・コア・カリキュラム」の学内での周知方法

	計 n=111		社会でリーダー& 国際的な活躍 n=36		組織でリーダー n=27		国試合格& 社会で活躍 n=48		P値
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
学内で情報提供を行った	97	(87.4)	33	(91.7)	24	(88.9)	40	(83.3)	0.702 b
学内で研修会等を実施した	21	(18.9)	6	(16.7)	8	(29.6)	7	(14.6)	0.271 a
学外の研修会等の参加を呼びかけた	56	(50.5)	13	(36.1)	14	(51.9)	29	(60.4)	0.069 a
その他	13	(11.7)	2	(5.6)	2	(7.4)	9	(18.8)	0.152 b
無回答	1	(0.9)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(2.1)	

a:  $\chi^2$ 検定

b: Fisherの正確確率検定

検定は,無回答(n=1)を除外

その他: 特別な周知はしていない, 担当分野を中心に資料を各教員に配付, 全教員にコアカリの内容を学修させているか確認, 5月の全栄協の研修会に参加し報告書を作成, シラバス記載にあたり活用を促しチェックした, 今後学内での研修会を予定, 担当教員間で読み合わせた, 文書の回覧, 研修会参加者が学内で復講した

表 4-2

重要と考える管理栄養士の人材像別「栄養学モデル・コア・カリキュラム」の教育課程への活用

	計 n=111		社会でリーダー& 国際的な活躍 n=36		組織でリーダー n=27		国試合格& 社会で活躍 n=48		P値
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
今後,学内での活用を検討予定	53	(47.7)	20	(55.6)	11	(40.7)	22	(45.8)	0.477 a
今後,教員個々人に活用を促す予定	41	(36.9)	13	(36.1)	11	(40.7)	17	(35.4)	0.893 a
既に,学内での活用検討を実施済	27	(24.3)	12	(33.3)	7	(25.9)	8	(16.7)	0.207 a
既に,教員個々人に活用を促し済	44	(39.6)	16	(44.4)	9	(33.3)	19	(39.6)	0.672 a
とくに活用する予定なし	6	(5.4)	1	(2.8)	1	(3.7)	4	(8.3)	0.567 b

a:  $\chi^2$ 検定

b: Fisherの正確確率検定

表 5 重要と考える管理栄養士の人材像別卒業生の進路割合

	社会でリーダー&国際的な活躍 n=36			組織でリーダー n=27			国試合格&社会で活躍 n=48		
	平均 ±SD	最小値	最大値	平均 ±SD	最小値	最大値	平均 ±SD	最小値	最大値
管理栄養士・栄養士の資格を活かして就職	69.7 ±19.2	29.0	100.0	73.8 ±15.3	39.0	98.0	71.7 ±20.5	29.0	100.0
進学	5.9 ±8.3	0.0	38.0	3.3 ±4.8	0.0	21.0	3.0 ±5.4	0.0	35.0
その他	26.8 ±17.7	0.0	63.0	23.0 ±15.4	2.0	53.0	25.9 ±18.7	0.0	65.0

SD: 標準偏差

## 【栄養士養成施設】

表 6-1 重要と考える栄養士の人材像別入学定員数

	n=70						P値	a
	栄養士の資質 n=22		管理栄養士の資質 n=7		栄養士&管理栄養士の資質 n=41			
	n	(%)	n	(%)	n	(%)		
40人以下	6	(27.3)	2	(28.6)	12	(29.3)	0.973	a
41人以上80人以下	12	(54.5)	4	(57.1)	19	(46.3)		
81人以上	4	(18.2)	1	(14.3)	10	(24.4)		

a: Fisherの正確確率検定

表 6-2 重要と考える栄養士の人材像別設置主体(国公立・私立)

	n=70						P値	a
	栄養士の資質 n=22		管理栄養士の資質 n=7		栄養士&管理栄養士の資質 n=41			
	n	(%)	n	(%)	n	(%)		
国公立	0	(0.0)	0	(0.0)	4	(9.8)	0.402	a
私立	21	(100.0)	7	(100.0)	37	(90.2)		

a: Fisherの正確確率検定

表 7-1 重要と考える栄養士の人材像別養成に重点を置いている分野

	計 n=70		栄養士の 資質 n=22		管理栄養士 の資質 n=7		栄養士&管理 栄養士の資質 n=41		P値
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
臨床栄養	19	(27.1)	5	(22.7)	1	(14.3)	13	(31.7)	0.545 a
介護・福祉	11	(15.7)	3	(13.6)	1	(14.3)	7	(17.1)	0.882 a
公衆栄養	4	(5.7)	2	(9.1)	0	(0.0)	2	(4.9)	0.724 a
給食経営管理・給食管理	51	(72.9)	18	(81.8)	4	(57.1)	29	(70.7)	0.595 a
学校栄養	10	(14.3)	2	(9.1)	1	(14.3)	7	(17.1)	0.055 a
スポーツ栄養	4	(5.7)	1	(4.5)	0	(0.0)	3	(7.3)	1.000 a
食品開発	13	(18.6)	8	(36.4)	2	(28.6)	3	(7.3)	<b>0.008</b> a
国際栄養	1	(1.4)	1	(4.5)	0	(0.0)	0	(0.0)	0.415 a
その他	23	(32.9)	6	(27.3)	1	(14.3)	16	(39.0)	0.391 a
無回答	17	(24.3)	4	(18.2)	3	(42.9)	10	(24.4)	

a: Fisherの正確確率検定

検定は、無回答(n=17)を除外

その他: 食品衛生, 栄養教諭, ゼミ活動, 調理技術, 食育, 地域連携, 食と農の連携, 調理額実習, 栄養化学, 調理, 食育, 地域連携活動, 食物アレルギー, 応用栄養, 健康教育演習, 栄養指導, 食育, 栄養教育

表 7-2 重要と考える栄養士の人材像別養成の特徴としている分野

	計 n=70		栄養士の 資質 n=22		管理栄養士 の資質 n=7		栄養士&管理 栄養士の資質 n=41		P値
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
臨床栄養	6	(8.6)	1	(4.5)	0	(0.0)	5	(12.2)	0.820 a
介護・福祉	4	(5.7)	1	(4.5)	0	(0.0)	3	(7.3)	1.000 a
公衆栄養	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	- -
給食経営管理・給食管理	35	(50.0)	9	(40.9)	3	(42.9)	23	(56.1)	0.650 a
学校栄養	5	(7.1)	0	(0.0)	2	(28.6)	3	(7.3)	0.059 a
スポーツ栄養	5	(7.1)	2	(9.1)	2	(28.6)	1	(2.4)	<b>0.023</b> a
食品開発	6	(8.6)	1	(4.5)	1	(14.3)	4	(9.8)	0.670 a
国際栄養	1	(1.4)	1	(4.5)	0	(0.0)	0	(0.0)	0.380 a
その他	23	(32.9)	8	(36.4)	1	(14.3)	14	(34.1)	0.396 a
無回答	20	(28.6)	8	(36.4)	2	(28.6)	10	(24.4)	

a: Fisherの正確確率検定

検定は、無回答(n=20)を除外

その他: 食育, 栄養教諭の養成, ゼミ, 食物アレルギー, 郷土料理, 地域の食材, 調理学実習, 地域の食文化, ライフステージ栄養学

表 8-1

重要と考える栄養士の人材像別「栄養学モデル・コア・カリキュラム」の学内での周知方法

	計 n=70		栄養士の 資質 n=22		管理栄養士 の資質 n=7		栄養士&管理栄 養士の資質 n=41		P値
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
学内で情報提供を行った	60	(85.7)	18	(81.8)	7	(100.0)	35	(85.4)	0.865 a
学内で研修会等を実施した	13	(18.6)	4	(18.2)	1	(14.3)	8	(19.5)	1.000 a
学外の研修会等の参加を呼びかけた	32	(45.7)	9	(40.9)	2	(28.6)	21	(51.2)	0.585 a
その他	4	(5.7)	2	(9.1)	0	(0.0)	2	(4.9)	0.738 a
無回答	2	(2.9)	2	(9.1)	0	(0.0)	0	(0.0)	

a: Fisherの正確確率検定

検定は、無回答(n=2)を除外

その他: 各教員にコアカリの中で教えている部分を確認させ、漏れがある部分は今後補う予定、学外の研修会に参加し伝達講習会を実施した、カリキュラム改編の参考とした

表 8-2

重要と考える栄養士の人材像別「栄養学モデル・コア・カリキュラム」の教育課程への活用

	計 n=70		栄養士の 資質 n=22		管理栄養士 の資質 n=7		栄養士&管理栄 養士の資質 n=41		P値
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
今後、学内での活用を検討予定	25	(35.7)	8	(36.4)	4	(57.1)	13	(31.7)	0.434 a
今後、教員個々人に活用を促す予定	23	(32.9)	7	(31.8)	2	(28.6)	14	(34.1)	1.000 a
既に、学内での活用検討を実施済	23	(32.9)	7	(31.8)	1	(14.3)	15	(36.6)	0.644 a
既に、教員個々人に活用を促し済	34	(48.6)	10	(45.5)	3	(42.9)	21	(51.2)	1.000 a
とくに活用する予定なし	1	(1.4)	1	(4.5)	0	(0.0)	0	(0.0)	0.406 a
無回答	1	(1.4)	1	(4.5)	0	(0.0)	0	(0.0)	

a: Fisherの正確確率検定

検定は、無回答(n=1)を除外

表 9 重要と考える栄養士の人材像別卒業生の進路割合

	栄養士の資質 n=22			管理栄養士の資質 n=7			栄養士&管理栄養士の資質 n=41		
	平均 ±SD	最小値	最大値	平均 ±SD	最小値	最大値	平均 ±SD	最小値	最大値
管理栄養士・栄養士の資格を活かして就職	67.0 ±11.7	40.0	83.7	75.6 ±18.2	42.6	100.0	71.3 ±11.2	48.0	93.0
進学	6.6 ±6.5	0.0	29.0	6.3 ±8.5	0.0	23.2	6.1 ±5.0	0.0	20.0
その他	26.7 ±9.9	12.8	48.8	18.9 ±11.8	0.0	34.2	23.2 ±10.2	4.0	47.0

SD: 標準偏差